

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普段よりオープンにしており、さくら苑を理解して頂き、閉鎖的ではなく地域に受け入れられるよう努め交流をしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑内に介護理念を掲示し、毎朝の朝礼にて唱和し実現に日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	3ヶ月に1度さくら苑便りを発送し、活動の報告を行っている。家族会、運営推進会などで理解していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	毎朝、顔を合わせる事も多く挨拶は出来ている。近所の方より野菜や花を頂き、散歩の際にはご入居者の方も顔を合わせると良く挨拶されている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも入会し、町内の行事にご入居者様全員とスタッフで夏祭りに参加し、管理者が師走の夜回りに参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内の方や、民生委員さんなど、立ち寄られる事もあり、回覧板など廻ってくる際など、1人暮らしの方などに、お元気であるか必ず声かけしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の記入にしてもスタッフ全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、ご家族、ご利用の方などに出席していただき、意見交換、要望など頂き、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所においては市への介護申請もサービスとして行っており市役所へ出向いた際には必ず担当者と情報を共有し市役所側からの提言・助言をいただき、またグループホーム側からの提言・助言を行い、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それぞれの勉強会・研修会には積極的に参加し、また朝礼、ミーティングにて発表し当事業所としての意向を共有し必要な方には提言・助言を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、研修会に参加し、虐待は絶対禁止であるといつも職員に伝えている。オープン以来虐待など行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ご家族・ご利用者に見学に来ていただき、また、昼食を取っていただき、その後2泊3日の体験入所をして頂く。その後、契約書・説明書など十分に説明して、納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からの意見や不満は随時お聞きしておりご家族、隣近所の方々の来苑もあり、指摘された事項についてはスタッフ全員で考え対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	さくら苑便りを3ヶ月に1度発行し、暮らしぶりなどご報告している。健康状態などは月1回ほどご家族に報告し、病院へお連れした時など、異常があった際には随時、報告している。お預りしている金銭については、毎月の請求書をお送りする際に、金銭出納帳、領収書を添え送付して報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や誕生会などの行事の度にご意見、ご要望をお聞きし、家族会でもご意見をお聞きしている。第三者機関への連絡方法も書類としてお渡ししている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や、月1回のミーティングの際にスタッフの意見を聞き、その意見を尊重し反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日頃から勤務体制についてはスタッフ一同必要に応じて勤務できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでは職員とご利用者の馴染みの関係は大前提である。異動はユニット毎で行い、出勤、退勤時には必ず他のユニットに挨拶に向くようにしている。離職についてはご利用者のダメージを最低限にするように努力している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢や性別には問わず本人の介護に対する熱意や適正、経験や、家族の仕事に対する理解などを考慮している。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	普段より個々に持たれている、政治・宗教などの価値観を曲げて接することのないように取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に応じて研修を受けている。事業所としては交通費全額支給や講習料の半額の補助などを行っており、今後も継続していく。	○	【処遇記録研修】【介護予防と口腔ケアの重要性】【口腔ケア法】【難病相談従事者研修会】の研修を受講しています。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と会を作り交流会を行っている。他のグループホームの夏祭りに参加させていただいている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスに対し、職員数を増やし、忘年会・飲み会などをユニット毎に行い、地域勤労者福祉サービスに加入し少しでもストレス解消に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃より介護の重要性を話し合い、職員の働き甲斐を大切にし、働きやすい職場作りに努めている。職員に年2回、自己評価表・自己目標を提出してもらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と一緒に見学され、他入居者と一緒に昼食を摂って頂き、場の雰囲気を見ていただいている。その後2泊3日の体験入所をしていただき、ご本人が求められていること、不安がられていることなどよく傾聴しながら過ごしていただいている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から、ご本人のことを良く聞き体験入所をお願いしている。体験入所をされたらご家族との話し合いの場を持ち求められていること不安なことなど一緒に話し合いながら少しでもご家族への支援が出来るように努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長、ケアマネージャーも同席し、ご本人やご家族との話し合いの場で必要なサービスの見極めを行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2泊3日の体験入所をお願いし、他入居者や場の雰囲気に馴染めるようスタッフ一同協力し、ご家族とも相談しながらサービス提供している。他入居者の方にもよく説明し、仲良くしていただけるようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフとご入居者が一緒に台所に立ち、食事の準備の手伝いや、配膳、盛り付けなどして頂き、料理の出来具合など、食事をしながら話し、楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、介護記録に目を通していただき、ご本人の日々の状態を把握していただいている。食事介助が必要な方には、ご家族にも協力していただき、スタッフと一緒にケアしていただいている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	親子仲が不仲の方にはご家族や、ご本人からよく話を伺い、ご本人には子供の大切さや、有り難さなど、昔話を取り入れて話題を多く持ち少しでも歩み寄ることが出来るよう努力している。また、ご家族にも出来るだけ多くの面会をお願いしている。	○	不仲の親子や兄弟の方々にはスタッフも一緒になって、仲良くされるよう両方の言い分をよく傾聴しながら支援していきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方がいつでも面会に来てくださるよう配慮している。居室にて、ゆっくりお菓子を食べながらご近所の方や、お友達と過ごしていただいている。また、ご入居前から習い事をされていた方は現在も苑に先生に来ていただき、習い事を続行されています。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士が姉妹のような関係になったり、少し元気がない方などにはスタッフと一緒に声をかけてくださったり、良い関係が保たれている。また、不穏になったりされている方にも話を聞いたりされており、助けられたり、助けたりの生活をされている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた後にもご家族が遊びに来られたり、メールや手紙のやり取りをしている。また、スタッフもお葬式やご法事にも進んでお参りさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にはご本人が使い慣れた家具や持ち物などまた、ご家族の方々の写真などを置いて頂いています。湯飲みなどご本人が使用されていた物、ご家族が買ってこられた物などを使っておられる。また、畳が好きな方には畳の部屋を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、キーパーソンの方に『今までの生活歴』をして頂き、生活歴、職歴、趣味、ご入居までの経緯をよく把握した上で介護にあたっている。また、ご入居の面接時にも生活歴をお聞きしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全スタッフが詳細な介護記録を記入し、その方の心身の状態の変化などの把握に努めている。また申し送りノートを使用し全スタッフが始業時に目を通し、変化などを把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意見を聞き出すことは困難な場合も多いが、ご家族にはケアプランを手渡す際や面会時にご意見やご要望をお聞きするようにしている。毎月1回各ユニットで行っているミーティングにてスタッフの意見を出し合って介護計画に反映している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行い、身体の状態の変化があった場合にはその都度、計画の立て直しを行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は詳細に介護記録、申し送りノートに記入しスタッフが共有し、その記録を基にして計画の見直し時に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用様の体調に応じ協力いただいている主治医とグループホーム、ご家族と協議し医療施設への入院、手術等の決定を支援している。また、退院後は当グループホームにて以前と同様の生活が出来るように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	運営推進会議には参加していただいているがグループホーム内の他の行事(誕生会・敬老会)にも参加を呼びかけ地域の一人であることで協働していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院された際にはスタッフ(主にホーム長)が病院へ行き状態を把握したり、病院からの説明を家族と共に聞き、情報を得て、他のスタッフに伝えている。退院後の対応もきちんとできるようにしている。時には他入居者の方とスタッフが一緒に病院にお見舞いに行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化になられた際の指針を定め当事業所の捉え方をご家族に説明している。その際、終末期に向け伺いはするが、ご家族間でも意見の相違があり、決定はせず、状態の変化によって話を繰り返し、最終的な決断をいただいている。その決断によって、職員間で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所ではお看取りまで支援させていただくこの方針に向けて、ミーティングにて協議している。終末期に入られた際には、協力いただいている主治医の依頼により訪問看護ステーションより点滴に来ていただいている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい方がご入居される際にはケアマネージャー、ご家族、ご本人などから十分な情報を得、スタッフ全員に申し送り、情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた対応を行い、プライバシーを守りケアを行っている。スタッフ同士で意見の交換を行い共有している。また、個人情報が出ないよう配慮し、介護記録には実名を入れずに記録を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が思いや希望を表せるように質問したり選択肢を多く出し、ご自分で決めていただいている。一人ひとりの力に合わせてじっくり説明し支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースをペースを大切にし、無理に要求せずご本人の希望があれば出来る限り希望に沿って支援し、なければ1日を充実して過ごしていただけるうに会話や体操、歌などで楽しんでいただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に応じた服装をしてはいただいているが、体温調節が難しいのか一枚多く着てある時があるためスタッフが見配り、気配りをしている。以前より利用している美容室に行っておられる方もおられるが、2ヶ月に1回理容師に苑に来ていただき希望者は散髪している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔から慣れ親しんだ陶器の器に盛り付け、見て楽しみ食べて美味しいと言ってもらえるよう努力している。準備や後片付けは元気な方に手伝っていただいている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご入居されてからはお酒、タバコは一切のんでおられない。また、おやつ、飲み物などはご家族からご本人に持ってきておられるものは、賞味期限や安全などを確認するようにしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご入居者の半数の方はご自分で排泄できる方であるが、他の方については排泄パターンを把握し、その方に合わせた時間でタイマーを使用しスタッフの声かけにて排泄誘導を行い、失禁を防止している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご入居者の体調に合わせて毎日希望される方には入浴していただくようしている。スタッフはご入居者と話をしながら、時間にゆとりを持って入浴を楽しめるように支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早めに休まれる方、時間をご自分で決めて休まれる方がおられるが休まれるまでの時間は入居者同士でゆっくりとお茶を飲まれながらおしゃべりや、テレビを観て自由に過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、野菜の皮むき配膳、下膳などほぼ全員に役割がある。また、気晴らしに外出される方もおられる。	○	楽しみごと、気晴らしの支援は一人ひとりとよくお話してできるだけ実施できるように努めたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もおられるが、あまり使おうとはされない。他の入居者もお金を使いたいとの希望も聞かれない。	○	お金を使う力のある方には使えるよう支援していき、仕える力のない方には今までどうり、ご家族より苑がお預りしているお金を使う方法で支援していきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に限らずスタッフと一緒に散歩に出かけられている。それ以外にも外のベンチに座り外気浴をされることもある。	○	他の入居者の状況やスタッフの数などにて希望をかなえられない事も多いが出来る限り希望に添えるよう努めたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族が頻回に来られる方は、外出される回数も多いが、スタッフ一名がご入居者一名について外出することは困難な状況である。季節の行事として、バスハイク(八女人形会館・伝統工芸館)や花見(桜・コスモス)、夏祭りにご入居者様全員と、ご家族もお誘いして外出をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方はいないが、年賀状、暑中見舞いは全員の方に書いていただいている。電話は一名の方はご自分で掛けられるが、他の方はスタッフの介助なしでは行えない状況。	○	ご家族からプレゼントされた携帯電話に大きい受話器をつけてスタッフの取次ぎのもと会話されている。電話の子機を自室に置かれて電話のやり取りをされている方もおられる。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方にはスタッフから、気持ちの良い挨拶を行うように努めている。室内の温度や雰囲気にも気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊行為などに対しても抑制することなく、見守りを行いご本人の意思を尊重して過ごしていただいている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開錠しているが、各ユニットの入り口は施錠している。	○	鍵をかけることの弊害は十分理解しているが、防犯上また、他のグループホームで、夕暮れ時に入居者が外へ出られ、翌日川で亡くなられた等の事故もあり、施錠している。鍵をかけていることについてはご家族には、家族会にて意向を伺っており、賛成の意を伺っている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人の希望にあわせ、居室の扉は閉めるようにしているが、夜間は安全管理上、ご本人の理解の下、扉を少し開けて物音に注意している。夜間は2時間おきの見回り、状態確認を行い、ご本人の状態に合わせ、30分毎の見回りも行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などの刃物はご入居者の手の届かないところに保管している。はさみ等の危険なものは事務所に保管し、ご本人の申し出により貸し出すようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	十分ではないがマニュアルを作っている。事故防止のためスタッフ同士で情報交換し、一人ひとりに合わせた介護を行っている。	○	マニュアルを十分なものに近づけていきたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員の訓練は行えていない。	○	消防と協力し職員全員が最低限普通救命を持てるよう、受講日程の調節等を行っていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練を行い、スタッフ全員が参加するようにしている。火災時のマニュアルを作成し見やすいところに貼っている。また、運営推進会議の中で、消防より火災発生時の地域住民の方々の協力体制の重要性について講演いただいた。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご入居時に転倒、誤嚥などの高齢者の特性についてご家族に説明し、ご入居後もその都度、現在の状態を説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定を行い、変化があるときは再検を行い、スタッフ全員に申し送り注意するようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、効果、副作用を記載している用紙をスタッフがいつでも見れる場所にファイルしている。薬の変更時、注意する点などをスタッフ全員に申し送りし、十分に注意している。処方された薬は日付、名前、いつ飲むのかを記入し、全スタッフがわかる様に管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩で体を動かすように促し、食事以外にも、午前、午後のおやつ時に水分補給をすすめ、水分摂取量のチェックを行っている。朝食後はトイレ誘導し、便意がなければ、腹部マッサージを施行している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを施行している。就寝前には義歯を預かり消毒薬につけている。随時、歯ブラシの交換も行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、おやつ時に水分補給に努めている。その方の状態に応じ、粥食、刻み食、ミキサー食など対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルをつくり、スタッフがいつでも見られるようにしている。フロアの入り口に消毒液を用意しており、スタッフはもちろん面会の方にも、入る前に消毒していただきまた、食事前には手洗い、消毒を施行している。外出からの帰苑後も、うがい、手洗いを徹底して行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全スタッフが調理器具などの清潔を保ち、食材も新鮮なものを使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花や木を植え親しみやすくしている。車椅子でも入れるよう広い扉とスロープ段差のない玄関にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の花などを飾り、雛飾り・母の日などの飾り付けをしている。階段にご家族の方との写真を貼っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにご入居者が座られるようにソファを置いている。一人ひとりが、自由に過ごせるように配慮している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居までの生活で、ベットか畳で休まれていたかをご家族にお聞きし、その方に合わせて対応している。自宅で使われていた馴染みのある家具を持ってきていただいている。	○	ご入居者によって差があるため、家族会や面会時に家具を持ち込んでいただくように声かけしている。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の際、窓を開けて空気の入替えを行い、押入れの中も整理し、汚れたものがないか等チェックしている。各居室にも冷暖房が用意されており、温度調節を行っている。	○	夏場は西日が当たる居室があるため、スダレ等を利用し、日差しをやわらげるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段に手すりを設置し、居室内は家具の安全な配置と整理整頓を心がけ、転倒などの事故防止に努めている。畳の居室は段差をなくしたり、色テープでご本人に段差があることをわかりやすく表示しつつ、スタッフも声かけし、つまづき、転倒を防止している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉にご本人の写真を貼り、トイレの電気のスイッチをご入居者の方にわかりやすく表示し、リビングのテーブルには名前を書き、混乱や失敗を防いでいる。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、散歩前後に座って外気浴を楽しめるようにしている。2階のベランダへ行かれる際は、ベランダの状態(雨で濡れていないか、物が置かれていないかなど)スタッフが確認し注意している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さくら苑は、全職員一致して、全てのご入居者様の安心と安らぎの生活を支援している。また、寝たきりになられた方にも褥創が出来ないようにケアし、ご家族の希望に応じてターミナルケアも実施している。